

令和7年度 学校経営方針

地域とともにある学校づくりに取り組み、生徒・保護者・地域から信頼されるよりよい学校として、生徒が通いたい学校、保護者が通わせたい学校、教職員が勤めたい学校をめざす。

○ よりよい生徒づくり

- ・ 確かな学力（基礎的・基本的な知識及び技能）を身に付けさせ、ものごとを適切に処理できる「知」の能力を育てる。
- ・ 自己肯定感を高めさせるとともに、自他を理解し、よりよく生きようとする「徳」の能力を育てる。
- ・ 心身ともに健やかで、生涯にわたって健康・安全に過ごすことのできる「体」の能力を育てる。

○ よりよい教職員づくり

- ・ 明るく元気で、自己研鑽に努め、教師の資質を高めるとともに、互いに認め合い、高め合い、助け合える教職員集団をめざす。
- ・ 全教職員が共通理解のもと、「率先垂範」「師弟同行」を念頭において、教育愛に徹した教育活動を実践する。
- ・ 生徒一人一人の人格や個性を尊重し、生徒の心に寄り添い、生徒の姿を見届ける指導を念頭において、個に応じた教育活動に取り組む。

○ よりよい学校づくり

- ・ 家庭及び地域とのコミュニケーション・連携・協働を大切にし、信頼される開かれた学校をめざす。
- ・ 地域とともにある学校としての役割を果たすとともに、地域の人的・物的資源を活用して、社会に開かれた教育課程の実現に努める。
- ・ 本校の伝統文化を大切につなげ、不易と流行を見極めながら、持続可能な教育に取り組む。

☆ 本年度の重点努力目標

人権・道徳教育を教育活動全体の柱として、生徒の教育にあたる。また、コミュニティ・スクールとして、地域との連携・協働を通して、学校・生徒・保護者・地域をつなげる活動に取り組む。さらに、学習用タブレット等のICT機器活用を推進し、プログラミング的な思考力の育成も含め、新しい時代を生き抜くことができる生徒の育成をめざす。

○ 「知・徳・体」の能力に関すること

- ・ 主体的・対話的で深い学びを意識して、生徒一人一人が学び合う授業づくりに取り組み、分かる授業を通して、確かな学力の定着を図る。また、学習用タブレット及び学習ソフトの特性を生かし、効果的に活用する。
- ・ 主体的に継続して学習する姿勢を身に付けさせるとともに、家庭学習の充実を図る。
- ・ 人権・道徳教育を推進し、多様性への理解を深めるとともに、「自分の命と大切な人の命を守る」「かけがえのない自分」「かけがえのない仲間」を意識した生活ができるようにする。
- ・ 「時を守り、場を清め、礼を正す」「凡事徹底」を常に意識した、基本的生活習慣の確立をめざす。
- ・ 基礎的な体力を培い、劣っている能力を補うとともに、運動の楽しさや喜び・充実感や満足感を実感できる取組を推進する。
- ・ 感染症をはじめ健康・安全に関する指導を充実させ、心身の健康の保持増進に対する意識を高める。

○ 教職員に関すること

- ・ 日頃の学校生活はもちろん、アンケートや教育相談等を通して、いじめの認知に努め、早期発見・対応を心がける。不登校については、「目の前の生徒に寄り添い、新たな不登校をつくらない」を念頭に、不登校生徒の将来の社会的自立に向けた支援に取り組む。
- ・ 不祥事防止を含め教職員の資質向上をめざす。また、教職員一人一人が人権感覚を高め、適切な言動での教育活動を実践することにより、信頼される愛知の教職員であり続ける。
- ・ 組織として、同一歩調と共通理解で教職員間の信頼関係を築き、報告・連絡・相談・確認を確実に行う。

○ 学校・家庭・地域に関すること

- ・ 学校ホームページやきずなネット等を活用して、学校からのお知らせ等を、確実に保護者や地域へ届くように情報を発信するとともに、しっかりとコミュニケーションをとることで、家庭や地域の理解を得る。
- ・ 学校運営協議会や地域学校協働本部との連携・協働を通して、教育活動や環境整備などの取組を進める。また、学校運営協議会の学校経営への提案を参考に、郷土愛を育む教育活動の充実を図る。
- ・ 家庭や地域に、「親切・丁寧・分かりやすい」対応を心がけ、家庭や地域との信頼関係を深める。

○ 働き方改革に関すること

- ・ 働き方改革を学校全体で推進するとともに、一人一人の働き方の意識改革を図り、勤務の効率化に取り組む。
- ・ 校務支援システムの活用をさらに進めるとともに、会議の時間短縮や効率化を図る。
- ・ 一つ一つの教育活動の見直しを進めるとともに、何事においても一人ではなくチームで対応することにより、負担の軽減を図る。